

長岡市イノベーション推進本部 基本方針

平成 30 年 4 月 16 日制定
(平成 31 年 4 月 22 日一部改正)
(令和 5 年 4 月 25 日一部改正)
(令和 6 年 4 月 22 日一部改正)

1 長岡版イノベーションの基本的な考え方

- 変化の波を的確にとらえ、従前にとらわれず市民生活の向上と産業の活性化を実現する。現在、世界の経済社会全体がさまざまな難しい課題に直面する一方、生成AIやチャットGPTなど技術革新がめざましく、その影響は経済・社会に及び、まさに世界的な大転換期にあるといえる。
- 国内では生産年齢人口の減少に加え、デジタル化の遅れや技術開発の停滞から地域産業の生産性が上がらず、数十年ぶりの高水準の賃金上昇率にも関わらず、物価上昇に追い付いていない状況である。
- 本市も、硬直化した産業構造のなかで、DX・新技術の導入や働き方改革が急務であるとともに、若者や女性、外国人材が働きたくなる産業集積（ITサービス業など）が求められており、意欲に満ちた地域おこし協力隊や地域内外の多様な人材が活躍する場・機会の創出が必要である。
- また、コロナ禍以降、孤独・孤立が社会問題として注目されるなど、コミュニティの維持・強化など地域づくりの重要性も改めて問われている。
- 米百俵の精神が息づく長岡として、この状況を産業転換と経済発展の大きなチャンスととらえ、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に長岡市産業協創推進条例に基づき、市政のあらゆる分野に先端技術や新たな発想を取り入れて、人材育成と未来への投資を行う「新しい米百俵」の実現に向けて、全力で取り組む。

2 共通の視点

- ① デジタル化や先端技術の導入等による変革の実現（DX等）
- ② 女性活躍の推進と多様性（ダイバーシティ）の確保
- ③ あらゆる分野で長岡モデルを創造し、新しい価値を創出

3 推進体制

- ・ 本部は、本部長、副本部長及び本部員で組織する
- ・ 本部長に市長、副本部長に両副市長を、本部員に特別職、各部局長、各支所長を充てる
- ・ DXを強力に推進するため、DX部会を設置する

4 施策の柱

以下の4つを柱に据えて施策を展開し、長岡版イノベーションを推進する。

(1) 産業の振興・起業の促進

① 長岡の英知を結集し、産業を活性化させる

長岡のあらゆる産業・事業活動に、市内4大学1高専に蓄積された技術・研究・デザイン力・マネジメント力等を活かした技術革新をもたらし、生産の効率化や製品・サービスの開発や向上による活性化を促す。

② 若者の起業・創業を促進し、女性にとって魅力的な働く場を創出する

長岡に集う若者を中心に据え、新しいビジネス創造に向けたチャレンジができる環境整備を進める。若者や女性・外国人が十分に能力を発揮でき、長岡で働く意欲を高める企業を誘致、育成する。

(2) 人材の育成・活用

① 変化の波に自らの足で立ち、自ら時代を切り開く人材を育成する

時代が求める知識や技能・技術について、学ぶ意欲に応じて子どもや若者が学校の内外を問わず学べる場をつくり、プログラミング教育などを通じて長岡版イノベーションを担う人材を育てる。

② 外部の人材を活用し、産業協創を推進する

専門的な技術や知識を持つ外部の人材や外国人材を積極的に活用し、新たな挑戦の支援と地域の課題解決を図るとともに、地域の産業を次代につなげるための新しい価値を創造する。

(3) 市民生活の向上

○ 変化する時代に合わせた、最適な行政サービスを追求する

市民に寄り添い将来にわたるニーズまでを的確に捉え、市民生活の利便性向上に努める。また、行政課題や地域課題を企業やスタートアップとの協創により取り組み、新たな成長産業として育成することも視野に進める。

(4) 行政事務の効率化

○ デジタル技術等の導入により、制度や施策、組織の在り方等を変革する

常に最適な行政サービスを提供する意識を持って、新しい技術やデザイン思考をはじめとした新しい発想を積極的に採り入れながら、業務の改善・再構築に取り組む。